

ゴールデンウィークに1970年に上映された《ひまわり》をたまたま観る機会を得た。2022年2月24日に侵攻後数日で陥落できるとロシアが思いこんでいたウクライナの首都キーウから南へ500km離れたヘルソン州が《ひまわり》の名舞台で、一面に広がるひまわり畑のロケ地とされている。このヘルソン州も例外なく、現在、ロシア軍の侵攻を受けていて、市民の犠牲も伝えられている地域で2014年にロシアに併合されたクリミア半島の北部に位置している。

の地で戦争が始まったことに絶望に似たやりの地で戦争が始まったことに絶望に似たやりの地ではない気持ちになる。2022年2月24日にロシアが隣国ウクライナに侵攻した。米国が侵攻の危険性を繰り返し繰り返し強く訴えていたが、侵攻を誘導しているがごとき聞こえ、少し辟易しかかっていたその矢先に侵攻が起きた。ウクライナに関する私の知識は、とても知識と言えるものではなく、肥沃な土地でヨーロッパの穀倉地帯として有名であることと160歳台の長寿の人々が住む国といったことぐらいしかない。長女が高校時代の修学旅行でバルト3国の1つであるリトアニア共和国を訪れ、す

## 許されない侵略戦争

### —空色と黄金色の大地の復興を願って—

情報広報部長 橋本 洋一

リトアニアにかぶれてしまつて大学を卒業したらリトアニアに住みたいと言いつつしまったのだが、その父親である私も命根性の汚なさが表面化し、将来ウクライナに移住し、長寿の恩恵を受けたいと思つたが、この長寿説は否定的なようだ。愚かな親子が醜態を見せてしまったことでこの話は終りを迎えるのだが、ロシアがウクライナに侵攻して3ヵ月あまり経過した現在、ロシア・ウクライナ間の戦争はいつ終息するか皆

一面広がるひまわり畑の下には、数多くの兵士や農民が埋まっていると地元の人々が夫を探しに来たソフィア・ローレン演じるヒロインのジョンバナに語りかける場面を観て、戦争で引き裂かれた男女の悲しみに満ち満ちて胸がいっぱいになった。50年以上の歳月が流れた現在、この地で戦争が始まった。この名作映画《ひまわり》がイタリア、フランス、ソビエト連邦、アメリカ合衆国の4カ国合作映画であり、戦争の悲惨さを後世に伝えるために制作されたはずの名作の舞台となったこ

目見当がつかない泥沼の様相を呈している。ウクライナ国旗が澄み切った青空に向かつて咲き乱れるヒマワリの花の空色と黄金色を象徴しているものと勝手に思い込んでいたが、黄金色は生産量世界7位を誇る小麦の畑を象徴しているらしい。ウクライナを支援する西側陣営は数多くの兵器をウクライナに供与する準備を着々と進め、ロシアとウクライナの立ち位置が逆転する可能性がでている。ウクライナが善戦をしてロシアを撃退させることができれば、それはそれで望ましいことであると思われるが、希望的観測に過ぎないという辛口の見方もある。しかし、武力で主権を有する他国を侵略することがまかり通れば、世界歴史上で大きな汚点を残すことになるだろう。シリアの内戦が始まって11年、ミャンマーで国軍のクーデターにより国民が虐殺されて2年が経過した。アフガニスタンの内戦はタリバンの復権で終止符を打つたが、地球上のどこかで必ず内線を含めた戦争が起きている。

日本医師会は世界医師会のウクライナ医療支援基金に3億円を送金した。この基金からの拠出で調達された医療物資はウクライナ医師会に手渡され、同医師会とウクライナ保健省との協力の下に最も重要なニーズのある地域に確実に配送されたことを報告させていた。空色と黄金色の大地、ウクライナの地に一刻も早く平和な時が戻りますようにと祈らざるを得ない。